

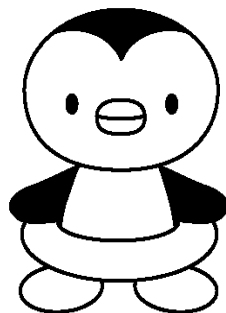
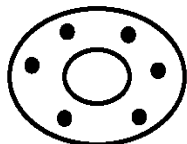


7月のほけんだより

平成30年7月

虹のこころ保育園

子どもたちが楽しみにしているプール、水遊び、温水浴が始まります。プール遊びは楽しい反面、限られた水の中にたくさんの子供たちがはいることで、汗や鼻水等により不潔になりやすく、プール遊びが病気の媒介になる可能性があります。園でも健康管理、水質管理、安全面に努めて実施してまいります。合わせて、ご家庭でもご協力とご理解をお願いいたします。



おねがい



*プールの水の清潔を保つため、毎日入浴しましょう。

*頭髪の脱落を防ぐために水泳帽を着用します。

水泳帽を簡単にかぶれるように、長い髪のお子さんは必ず飾りのないゴムで結んでください(プール後は、頭からシャワーをおこないますので、編み込みなどはしないようにお願いします)



*安全のため爪も必ず短く切ってください。

*「夏の健康観察表」を忘れずに記入しましょう。記入もれや、×印があると、プール・水遊びができません。



★医師からプールの許可をもらっている場合、その旨を記載して頂くか、職員に直接お声かけてください。



気をつけよう！夏にはやる病気

夏に気をつけたい感染症。代表的な3つについて、主な症状を挙げてみました。気になる症状が見られたら、早めに受診をお願いします。

ヘルパンギーナ

高熱とのどの痛み。特にのどは、水ほうや潰瘍ができるため、かなり痛む(乳児はミルクが飲めないほど)。



フェール熱

(咽頭結膜熱)

高熱とのどの痛みのほか、目の痛み・かゆみ・充血など、結膜炎のような症状がでる。



手足口病

手のひらや足の裏、口の中に小さな発しんや水ぼうがで、熱が出ることも。

<登園許可証明書が必要な疾患>

・プール熱・伝染性膿痂疹(とびひ)

※ヘルパンギーナ・手足口病は、医師から登園停止と診断された場合に登園許可証明書が必要になります。

伝染性膿痂疹(とびひ)

アトピーやあせも、虫刺され、すり傷などを手で触ったり掻いたりすると、皮膚の表面に複数の細菌が付着して繁殖し皮膚がただれたり、水ぶくれになったり、かさぶたになったりします。なかでも黄色ブドウ球菌は高温多湿を好むため、夏になると流行します。

患部を触った手で体の他の場所に触れると、感染がさらに広がります。ガーゼなどで覆って、患部に直接触れないようにしましょう。状態がひどい場合は医療機関に相談して下さい。子どもの間で感染しやすいのでタオルの共有や兄弟との入浴は控えましょう。虫刺されやすすり傷などは放置せず、しっかりと消毒をして清潔にし、とびひにならないように注意が必要です。汗をかいたらこまめに着替え、爪は短く切り、毎日シャワーを浴びて体を清潔に保つことが一番の予防法となります。



7月の保健行事

10日 身体測定
(すみれ、あじさい、よつば)

17日 身体測定
(ひまわり、ゆり、ちゅうりつぷ)

